

# 青少年育成センターだより

第108号 2021.4.1

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013



新たな年度が始まりました。コロナ禍ではありますが、子どもたちは希望を胸に新たな一步を踏み出すことなのでしょう。お父さんお母さん、地域のみんなでしっかり子どもを支えてやってください。



## 子どものモラルについて考える

子殺し、親殺し、虐待等、最近ニュースでよく耳にします。つい耳をおおいたくなってしまいます。私たち（昭和世代）が、子どもの時にもそのようなニュースを聞くことがありましたが、今ほど多くはなかったように思います。なぜ、日本はこのような国になってしまったのでしょうか？

かつての日本は、貧困でした。その中で、国民が必死に働くことで、物質的には豊かになりました。しかし、その豊かさの中で、本当に大切なことを忘れていってしまったのではないのでしょうか。その結果、日本人のモラルが低下してきたように思います。

私の田舎では、かつては家に鍵をかける習慣がありませんでした。鍵をかけずに、開けっ放しの家が多く、留守中でも玄関に回覧板が置いてあるという状況でした。しかし、ある家に不審な侵入者があったということから、それぞれの家では鍵をかけるようになりました。自分の安全は自分で守ることは大切です。でも、人を信じられない世の中になったらとても悲しいことだと思います。

このような世の中の風潮で、子ども達のモラルはどうなったのでしょうか。

自転車に乗りながら、スマホを操作したり、列車の中で、立っている人がいても平気で空いた席にカバンを置いている高校生、級友が登校できなくなるまでいじめる・・・等、気になることが多くあります。子どもにモラルが身についているとはいえません。

私が子どもの頃は、「うそをついてはいけない」「人をいじめたり、傷つけたりしてはいけない」「人のものを盗ってはいけない」等、してはいけないことについては、祖父母や父親からいつも言われていたことを覚えています。私の家庭だけでなく、日本の多くの家庭ではそうして子どもを躾けたのではないのでしょうか。かつては、そのようにして子どもたちの意識の中に、やってはいけないことが根付いていったのではないのでしょうか。

今後も「個人の尊厳」や「人権や権利」を守ることはこれまで以上に進めなくてはなりません。しかし、それらを進めると同時に、子ども達には、守らなくてはならない義務やしてはいけないことについては、「ならぬことはならぬ」（「什の教え」 青少年育成センターだより第十二号）」と、できるだけ早いうちから家庭で躾け、学校で教育しなくてはなりません。そうでないと、自分勝手なことをする者ばかり増え、他を思いやり、他と協力できる人間は育ちません。これからの日本はますます生きにくい国になるのではないのでしょうか。

家族でモラルについて、考えてみてください。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村